

上下水道局の決算

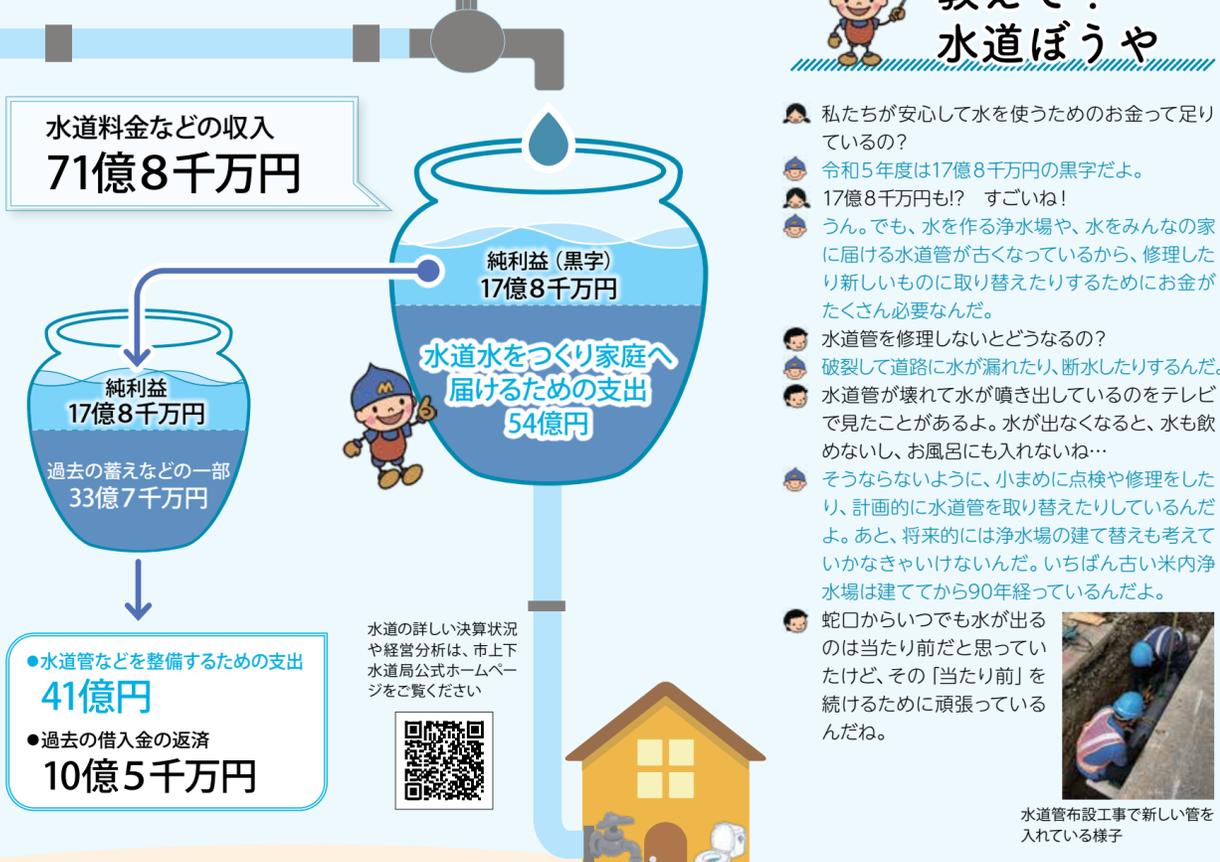


水道と下水道のことを
もっと知ってほしい!

上下水道事業は、皆さんからの水道料金と下水道使用料を主な財源として運営しています。施設老朽化による整備費の増加や、人口減少に伴う料金収入の減少などにより厳しい経営環境にありますが、長期的に、安心して上下水道を使っていただけのように努めていきます。

【問】上下水道局経営企画課 ☎623-1442

水道事業会計 →

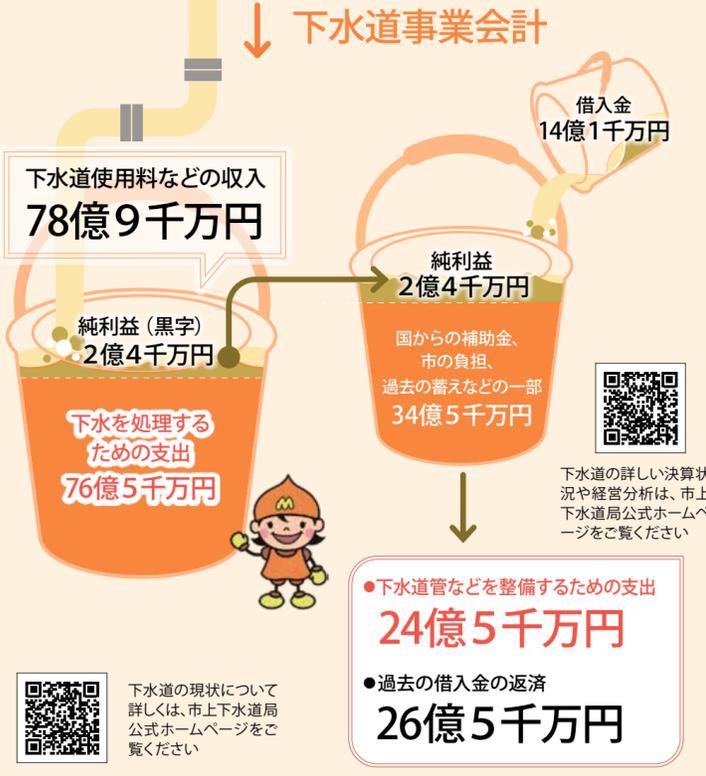


教えて! 水道ぼうや

- 私たちが安心して水を使うためのお金って足りているの?
- 令和5年度は17億8千万円の黒字だよ。
- 17億8千万円も!? すごいね!
- うん。でも、水を作る浄水場や、水をみんなの家に届ける水道管が古くなっているから、修理したり新しいものに取り替えたりするためにお金がたくさん必要なんだ。
- 水道管を修理しないとどうなるの?
- 破裂して道路に水が漏れたり、断水したりするんだ。
- 水道管が壊れて水が噴き出しているのをテレビで見たことがあるよ。水が出なくなると、水も飲めないし、お風呂にも入れないね…
- そうならないように、小まめに点検や修理をしたり、計画的に水道管を取り替えたりしているんだよ。あと、将来的には浄水場の建て替えも考えていかなきゃいけないんだ。いちばん古い米内浄水場は建ててから90年経っているんだよ。
- 蛇口からいつでも水が出るのは当たり前だと思っていたけど、その「当たり前」を続けるために頑張っているんだね。

教えて! 下水道あいちゃん

- 下水道の黒字は2億4千万円なんだね。水道の黒字が17億8千万円と聞くと、下水道はとても少ないような気がするね。
 - そうなの。令和元年度と比較すると5億円も減少しているのよ。
 - それは大変! どうしてなの?
 - 水道も同じだけど、市の人口が減って収入が減少傾向にあるの。あと、下水道管も古くなっているから、修理したり新しくするためにお金がたくさん必要なの。
 - 下水道も大変なんだね。あれ? 右の図には「借入金」というのがあるね。水道には無かったけど。
 - そうなの。新しい下水道管の整備などのために、14億円以上の借金をしたのよ。
 - 下水道管ってそんなに整備が必要なの?
 - みんなが快適に暮らすためには必要なの。災害があっても安定的に下水道を使えるように下水道管の耐老化も進めているのよ。
 - 確かに、下水道が使えなくなったらトイレも流せないし、汚い水が道路にあふれたら大変だ!
 - みんなの生活に欠かせない下水道を使い続けられるよう、計画的に整備を進めているのよ。
- 古い下水道管を更生している様子



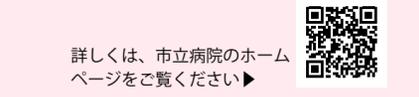
市立病院の経営状況



▲毎年11月上旬に世界糖尿病デーに合わせてブルーライトアップする市立病院

市立病院は、一般診療や各種健康診査のほか、救急医療にも対応するなど、皆さんの健康のために必要な医療を提供しています。また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザへの感染対策を徹底し、いつでも安心して受診できる環境を提供しています。令和5年度の市立病院の決算と主な取り組みなどをお知らせします。

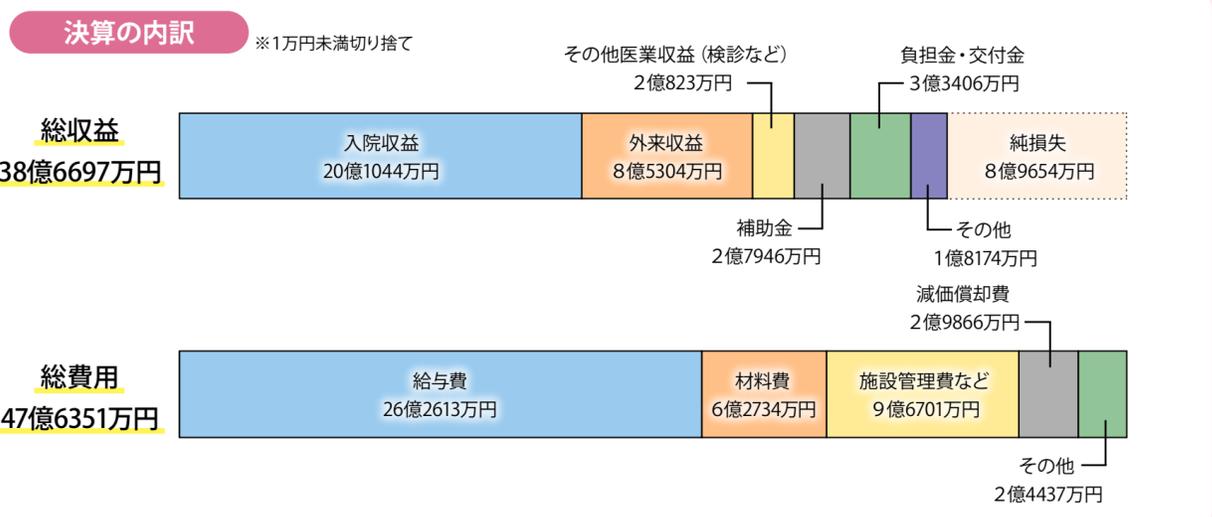
【問】市立病院総務課 ☎635-0101



令和5年度の決算

8億9654万円の損失となりました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、病棟制限が緩和されたことにより医療収益が増加しました。一方、新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金は減少しました。令和5年度は総収益が38億6697万円、給与費や材料費などの総費用が47億6351万円となり、8億9654万円の純損失となりました。



令和5年度の主な取り組み

新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じ、重点医療機関として、同感染症への対応と一般診療の両立に努めました。

- 新型コロナウイルス感染症への対応**
- 感染症患者の入院受け入れ
市中の感染拡大状況に応じ必要な病床を確保し、盛岡医療圏で最多の入院患者を受け入れました。
- 発熱患者の外来受け入れ
発熱患者待機室兼診察室を活用し、発熱した患者と他の患者を分けて診察できるようにし、来院した皆さんが安心して受診できる環境を整えました。

- 経営強化プランの策定**
- 人口減少や少子高齢化が急速に進展し、地域を取り巻く医療環境は大きく変化しています。地域医療構想の枠組みの下、市立病院が果たすべき役割を明確にするとともに、医療機関の機能分化や連携強化を図り、令和6年度から令和9年度の期間における地域の医療需要を見据えた上で、良質な医療を提供する経営基盤をどのように強化していくのかを示す「盛岡市立病院経営強化プラン」を策定しました。詳しくは、市立病院のホームページをご覧ください。

- 令和6年度も引き続き…**
- 地域の診療所や病院、介護施設などと連携を進めています。高齢社会の進展に伴って今後も増加が予想される、がんや生活習慣病、認知症、肺炎、骨折などに対する対応を強化し、地域多機能病院として地域包括ケアシステムを支えます。

- 人工透析体制の充実**
- 岩手医科大学付属病院をはじめとする高度急性期病棟の維持透析患者が増える傾向にあることから、維持透析のための設備の増強と必要なスタッフの確保に努めながら、本年度は透析室の改修工事を実施し、令和7年度以降、段階的に増床することでその充実を図ります。